

Q 1	<p>工場が全世界にあると思うが、安全を最優先にすることと、基本を一つ一つ繰り返しやり、(課題) 解決していくということを最優先にしていきたい。この2つのことを一歩一歩行っていないと、会社の経営は前進していかないと思う。毎年多くの新入社員が入ってくると思うが、『金川経営』をその一人一人に傳承していくことについて、社長のお考えを伺いたい。</p>
A	<p>『金川経営』なるものが当社に息づいており、まさにこれが引き継がれていかなければいけないと思っています。そのために、私自身、講義のようなことも行っています。一番大事なことは、場面場面でどのように仕事をしていくかという、いわゆるオン・ザ・ジョブ・トレーニングで、『金川経営』をどう体現させていくかということです。私も当然関与していますし、ここに登壇している経営陣、それから事業部長等、全員がそういう意識で日々の仕事を行い、『金川経営』を引き継いでいくということを綿々とやっています。今後ともそれを続けてまいります。</p>
Q 2	<p>質問時間を制限するようになった。質問が尽きるまでやればよいと思うのだが、お考えを伺いたい。 また、来期の主要な経営指標の予想について、現時点で会社は一切発表していないと思うが、どうなっているか伺いたい。</p>
A	<p>質問の受け方についてのご指摘がありました。これはあくまで目安です。株主の皆様も色々とお仕事なり用件なりを抱えておられると思いますので、申し上げた次第です。 また、今期の決算予想につきましては、確かにまだ出していません。市況、事業環境の見極めをよくした上で、出すからには確度の高い数字にしなければいけないという姿勢で取り組んでいます。近々、業績予想、決算予想を出せるよう、今まさに取り組んでいるところです。</p>
Q 3	<p>昨今の日本企業についての問題点として、女性社員の抜擢ということがよく言われている。その辺はどのように考えて具体的に取り組んでいるか伺いたい。</p>
A	<p>女性の活用、女性社員の抜擢というご質問かと思いますが、これは意識して取り組んでいます。努力している真っ最中です。 当社の女性の活躍に関しまして、課長職以上の管理職に占める女性の比率が1.7%で、信越化学、それから連結会社を含めたグローバルレベルでの女性の課長職以上の管理職は12.6%になっています。近年は研究職や管理部門、それから営業部門において、女性が活躍する職域の拡大を図っており、それに伴い女性の採用数も増やしてきています。女性活躍推進法に基づく女性活躍推進に関する行動計画として、2021年4月からは数値目標を掲げました。これからも性別に関係なく公平に、管理職への登用や評価、そして処遇など、能力主義、成果主義に基づいた人事制度を徹底してまいります。</p>

Q 4	<p>第2号議案について、女性役員が今回1人選任されると思うが、非常に少ない。ダイバーシティの観点からも遅れていると感じる。</p> <p>それから、スキルマトリックスについて、他社ではITやデジタルという項目があるが、当社にはない。執行役員にはデジタル推進室長という方がいるが、この方に専門性やスキルなどが実際あるのかどうか。また、会社として、これからのデジタルトランスフォーメーションなどの対応について、どのように考えているか伺いたい。</p>
A	<p>まず、多様性の推進という点につきましては、私をはじめ当社経営陣は、これまでも相当意識をして取り組んできましたし、今後も取り組んでまいります。今回、女性の取締役も招きましたし、一步一步確実に進めてまいりますので、ご了解願います。</p> <p>次に、デジタル分野での取り組み、執行部の専門性についてですが、専門分野は専門家を雇って進めればよいと考えています。ITやデジタルの道具をどのように使っていくかということが、執行部が考えなければならないことであって、それは各所でやっております。製造でも研究でも、業務一般でも、積極的に道具として使えるものは使っていくよう取り組んでいます。</p>

Q 5	<p>多額の現預金があるかと思うが、資本効率という面での考えを伺いたい。</p>
A	<p>資本効率については、経営陣も当然意識しています。昨年、自己株式の買取りも行い、資本政策は大事な仕事のひとつと認識しています。基本は、事業で上げた収益、キャッシュフロー、その結果としての預金、これを事業に再投資していく、そして事業をさらに成長させていくことが第一であり、設備投資に限らず、研究投資等々、もちろん、いわゆる人的資本に対する投資も含めて資金を活用いたします。その上で、株主還元もしっかりと実施していきます。</p>

Q 6	<p>M&A方針について伺いたい。株主としては、株主還元が非常に重要だと思うが、その原資となる会社の持続的な成長が何より重要だと思っている。オーガニック成長でできるというご認識なのか、それとも、M&Aについて関心のあるエリアや事業があるのか、伺いたい。</p>
A	<p>今ある資金をどのように使っていくかということに関して、M&Aも選択肢の一つであることは間違いありません。これまでもそういう機会を求めて、あるいは、いわゆる入札といったことにも参画しました。ただ、いわゆる高値掴みというのは何としても避けなければいけませんので、その辺を注意しながら取り組んでいます。昨今、いわゆる会社の評価、マルチプルと言われる指標が相当高くなっていますので、その辺をよく見ながら、タイミングを失することなく、M&Aをやるときはきちっとやるということで取り組んでまいります。</p>

Q 7	役員の方の年齢が高いと感じる。当社のような急進的な新しい分野で活躍する企業としては、やはり若い人たちの新しい発想、思想というものを導入していくべきだと思っている。そのために、若い人たちを役員に入れるなど期待しているが、ご意見を伺いたい。
A	ご指摘の通り、若いリーダーを登用していくことは会社の活力、あるいは将来性のためにも必要だということは十分認識していますので、そのように取り組んでまいります。

Q 8	金川会長が亡くなられたが、その精神は脈々と今でも生きていると思う。どうかこれからも100年、200年先に向かって頑張っていってほしい。
A	ありがとうございます。ご期待に沿えるように、精進し、頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

以 上